

ああ、結婚！

黒田長宏

発端

私は2017年2月19日現在で49歳。6月で50歳になります。結婚は一昨年(2016年)の11月、47歳の時でした。ところが、妻が婚姻届けを出した後すぐの小旅行から帰って3日後の朝、実家に帰ってしまいました。

前日の晩、なにやら言い出している様子があったのですが翌朝、私が勤めに出かける前、「ありがとう」と握手をしたら、「お世話になりました」と言うので嫌な予感も少ししたのですが、戻りませんでした。

一旦実家に戻って出直す事になっていたのですが、その後メールで調子が悪いと書いて来て、心配だから実家に向かうとメールすると、「来るな」と書いて来て、警察に飛び込んでしまいました。私が実家に行って暴力を振るうと思ってしまったのでした。

その後、妻の実家近くのファミレスで、世話人と3人で話し合いを持ちましたが、途中で怒りだして、離婚調停、離婚裁判と、どんどん進ませて行ってしまいました。私はカウンセリングなどを利用して、妻の気持ちを緩和したかったのですが、妻の司法手続きのほうが早く、調停は2回ほどで終えてしまい、裁判になりました。

1審は離婚理由なしで私の主張が通ったのですが、すぐ妻は控訴しました。ネット情報によると75%は1審通りだろうと書かれていて、私もまさか覆されないだろうと思っていたら、逆転判決を受けてしまいました。

しつこすぎると思われるかも知れませんが、私としては離婚はしないと伝え続けてきたので、最高裁に上告しました。0.3%ほど再逆転の可能性があるように書いてあるサイトがありました。担当の弁護士さんが昨日、届けを出してくれた所です。

婚活

やがては元妻と言うべきなのか、妻と出会ったのは、いばらき出会いサポートセンターというところ(茨城県)です。茨城県と社団法人茨城県労働者福祉協議会が共同設立したのが平成18年との事ですが、私は今から23年前には既に婚活をそこでしていました。それが創世記に近い時期だったのか、随分熱心な女性の担当者がいました。

婚活のパイオニアに近い状況だったのかも知れません。婚活というより、グループ交際のように、婚活という言葉もその後だったかも知れません。茨城県は婚活を先駆けて行った県だと言っても良いのかも知れません。

まだ25、6歳だったか、当時は言葉としては無かったかも知れない「婚活」を始めました。その頃は余裕があったというよりも、危機感は無かったです。その後、仕事でいろいろあり転々と職業を変えたりする間は、婚活を疎かにしてしまい、10年近く空白にしてしまいました。これが人生の作戦ミスで、仕事よりも配偶者選びを重視すべきだったと、もう戻らない時の流れを思います。婚活だけではなく、20代から30代はじめの頃には、親戚がいく

つか見合い話も持ってきてくれました。やはり、ライフサイクルに適齢期というものはあるのです。

やがてなるであろう「元」妻の小旅行先と、25歳頃に人生で最初に見合いした人とのデート場所を選んだのが、同じ千葉県銚子市というのも調子が悪いお話ですが、最初に見合いした人には、デートが終わる頃には、「私、帰る」と途中で歩いて帰られてしまいました。やがてなるであろう「元」妻にも、ひどい目に遭わされましたが、婚姻まではしてくれたのです…。

最初に茨城出会いサポートセンター経由で会ってくれた人も、30分の面会途中で、文句をいい出して、席を立ってしまいました。私のどこがいけないか教えてくれと尋ねたら、そう尋ねるところよと回答を受けました。その女性は私の写真を撮影した頃と比べて実物が痩せていて違うと言っていました。痩せても太ってもダメなんではしょうか。こういう事があるから、批判調になっても仕方がないと思うのですが。男性ばかり悪いということは経験上ありません。婚活中もいろいろな女性がいます。それは職場でも同じですが。

茨城出会いサポートセンターでも、何人、何十人に、応募しても返事がきません。却下されてしまうわけです。ですから、好みの容姿や趣味などの人にどんどん応募してもどんどん却下されるので、容姿も趣味もかなりいいなど言う人で無い人も、目を細めてみながら応募しますが、それでもダメです。茨城出会いサポートセンターの他にも当時はかなり広告を出している結婚相談所にも加入しました。数十万単位の入会金だったのでしょうか。そこでもダメです。一人も会ってもらえませんでした。

た。会ってくれたのは、茨城出会いサポートセンターからは数人いてくれましたが、幾つかやったネットで検索するような大手の企業からは一人だけでした。

こうして書いていく間に思い出して行くのが不思議ですが、茨城出会いサポートセンターとまた違う所だったのか、少し似たような婚活の組織があったのですが、そこでは年収が一定以上でないと無理だから受付ないとけんもほろろに言われたりしました。このように婚活というのは、一定の年収などの立場で区別されてしまったりします。年齢だって、恋愛ならば、40歳の人と25歳の人が交際している事例も幾つもあるのに、マッチングの段階から、男性は40代で女性は30代とか決められてしまいます。はみ出した所に可能性があったかも知れない可能性を区分して消してしまうところがあるのです。

社会的にも結婚難が言われ始め、相手を選び好みし過ぎるから見つからないのだと言われてもいますが、まさにその通りもあると思います。誰でも良いというわけでもなく、男性なら色気を感じる女性のほうがスムーズに感じる面は実際にあります。ただそこら辺の容姿を超えたところに、憐憫のような、慈しみのような気持ちを感じる面が大人なのかも知れません。社会が大人で無くなったのかも知れません。やがての元妻は、「ストライク？」と聞いてきましたが言えませんでした。でも、最高裁まで離婚したくないと言い張れるような事が出来たのですから。

30代で既に難しかった婚活をまた50歳でやらねばならないかと思うと、相当根性があるか、平均的事象を気にしないかしかありませ

ん。今日は「新婚さんいらっしゃい」で、幼馴染だったのが高校で離れて、どちらも離婚経験者で、同窓会で35年ぶりに再会して、再婚したという51歳の夫婦が出ていました。こういう再婚の例もあるようですが、私はまだ実子を諦めておらず、同級生だと難しいかなという思いです。

農家生まれの長男、後継ぎというのもあります。さらに、かなり後になって知りましたが、男女の双子で授かったのに、私が大きく育ててしまって姉か妹かわかりませんが、死産だった事や、3つ違いの妹が小学4年頃だったか、風邪が心臓にまわってしまい急死してしまったりと、兄弟姉妹からして悲惨なスタートをしました。それなのに後継ぎを出せないというのはプレッシャーになるのに、3日が出ていった妻を粘って2年以上費やして、さらに最高裁まで延長してしまうという、普通ではありません。

多様性を尊重すると言いながら、こういう場合は早くやめろと言われるのが世の中です。本当は、調停から裁判に至るまで、離婚するほうが優位になるような仕組みになってしまっているような所を一番書きたい気分ですが、自己紹介も兼ねて、私の婚活周辺について書いてみました。